

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカるっ!

エリガベスのきんつば

日本人は控えめな人が多いというのはひと昔前の話かもしれない。文化庁が全国の16歳以上の男女におこなった「国語に関する世論調査」によると、気配りや謙遜を表す言葉を使う人の割合は大幅に減っている。

贈り物を渡すときに「つまらないものですが」と言うことがある人は14年前の68%から今年は61%に減り、「お口に合つかどうか分かりませんが」と言う人は55%から45%に。料理を食べてもらった後で「お粗末でございました」と言う人は37%から27%に減ったという。

そりやそうだろう。最近では私のまわりでも、実力以上の大風呂敷を広げる「ビッグマウス」が主流。へりくだる人などめつたに見かけない。お菓子を配るときなど「これ食べてみてちょうおいしいから!」っていうノリの人がほとんどだ。目上の人に対しても「これ食べてみてくださいすごくおいしいですから!」と微妙に変化するくらいではほぼ同じ。時代は明らかに、謙遜から「不遜」や「自慢」へと向かっている。

しかし、私の友だちには一人だけ、謙遜の似合う美女がいる。以前このコラムでもネタにしたことがあるエリガベスである。現実的でクールなのに古風な一面をもった彼女が先日、和菓子の「きんつば」をくれたのだが「私これ、意外と好きなんだ……」と控えめに言うばかりなのだ。

私は持ち帰ってひとつ食べ、塩が少しきいた上品なおいしさに感動。翌日、スイーツ通の別の人にもおすそ分けした。もちろんそのときは「これ食べてみてちょうおいしいから! (もらいものだけ)」と言っただけだ。そしたらその人は、ひと目みて「これ、東京一おいしいと言われている老舗のきんつばだよ」と教えてくれたのである。

さすがエリガベス。自慢せずに、あとからじわじわと人を感動させる謙遜ってすばらしい! 私もぜひ見習いたいものだけ。

というわけで、お口に合つかどうかかわからないお粗末なつまらないコラムですが、引き続きどうぞよろしくお願ひします。

相川藍 (言葉家)

丸の内文学賞 (大賞)、朝日広告賞 (最高賞)、インターネット

ト書評コンテスト (最優秀賞) 受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。